



平成 27 年・第 45 回九州アマチュア選手権競技

競技報告 (2015/5. 14-17)

写真と記事 : M. Kikutake

高校生がV奪還

古川雄大(福岡第一高3年)がライバルたちを抑え、逆転初優勝

第45回九州アマチュア選手権競技は5月14日から4日間、佐賀県三養基郡みやき町の佐賀カントリー倶楽部(6748ヤード、パー72)で行われ、最終日の17日は首位に1打差、2位スタートの17歳、福岡第一高3年の古川雄大(ゆうき、大博多)が1オーバーで回り、通算3オーバーの291で逆転初優勝した。

競技は初日、53歳のベテラン、大倉清(大博多)と、JGAナショナルチームのメンバー、比嘉一貴(東北福祉大2年)の2人が1アンダーで並びトップスタート。2日目、古川は72として日本経済大1年の蛭川隆(IGR京セラ)とともに2位タイにつけた。3日目、上位陣のスコアが伸びない中で、比嘉が再び首位に立ったものの、最終日は古川が73と手堅くまとめ逆転3打差をつけて栄冠を手にした。

古川は自身初めての公式戦勝利。昨年の九アマ6位タイで出場した日本アマチュア選手権では決勝マッチプレーには進めなかったものの、貴重な経験を積んだ。

2位タイは福岡・沖学園高2年の篠原仕師命(はじめ、湯布院)と2人の大学生、蛭川と比嘉の3人だった。ベテランの大倉は2、3日目にやや息切れしたが、最終日はベストスコアタイの72で回って5位。57歳のシニア、野上英司(ミッションバレー)は通算16オーバーの16位タイと大健闘だった。

今年の九州アマは11県地区で行われた第1次予選に1152人がエントリー、この中から486人が3地区での第2次予選に進出、決勝大会の出場権を争った。

その決勝大会は4日間とも好天に恵まれた中で、シード選手らを含め161人(欠場2人)が出場。同CCは距離はそうはないものの、難易度が高く、対決軸はジュニア勢に学生、これにベテランがどこまで絡んでくるか、だった。

日本アマは24人

九州オープンは30人が出場権

この試合の結果、シード選手を含む上位24人が「第100回日本アマチュア選手権」(7月8日から、兵庫県の広野GC、小野GCの両コースで予選実施、決勝マッチプレーは10日から4日間、広野で実施)の出場権を、また、上位30選手は6月11日からの九州オープンへの出場権を獲得。





「優勝したい、けど平常心で…」

アマ界の九州頂点に立った古川雄大(大博多)

おそらく、心の中で「我慢だ」「平常心だ」と言い聞かせていたのだろう。アテスト(スコアカード提出)がすんで報道陣に取り囲まれていた古川は、「優勝を意識したのは何番ホールで？」と問われると、「いやいや、最後まで…緊張しました。(優勝は)夢みたいです」と満面に笑みを浮かべた。

ライバルは最終組で同組の大学生2人。比嘉を1打差で追う古川は、出だしの2番(パー5)で幸先よくバーディーとしたが、直後の3番(パー4)でまさかのトリプル。比嘉との差は3打に広がった。しかし、比嘉、蛭川ともに「走っている、というわけではない。古川はその後1バーディー、1ボギーで終盤を迎え、8番バーディー、9番イーグルとし、9番でダブルボギーを打った比嘉に逆転、2打差をつけてトップに立った。特に9番は「残り250㍎ちょい」をスプーンでカップ2m以内につけて、楽々のイーグルだった。

後半、手堅く2ボギーとまとめた古川に対し、追う蛭川は1ボギー、1ダブルボギー。比嘉は2バーディーはあったものの1ボギーの後、15番で池に入れるなどしてダブルスコアの8をたたき乱調。3日間続けたトップの座を譲り渡した。

古川は勝因として、「ミスった後も、いつも通りの平常心というか、最後まで気持ちが切れなかったのが良かった」と言う。



福岡県大野城市の出身で、大野南小5年生の時、シングルプレーヤーで内装業の父親、嘉久氏(50)の影響で始めたゴルフ。それまではサッカー少年だった。平野中から福岡第一高に進学。これまで、目立った実績は残しておらず、昨年の九州アマは6位で、初出場の日本アマは予選落ち。

それが今年4月の九州サーキットの第17回トヨタカップで、比嘉らを抑えてベストアマ。初日に同組になった昨年のツアー賞金王、小田孔明に「いいスイング、いい球を打つね」と褒められた。それが自信になり、その時のスイングイメージを壊さないようにした。

そして、試合に臨むにあたっての、父親からのアドバイスは「平常心を心掛けて、単純なゴルフで楽しんでおいで」だった。

無冠から九州トップに。これからはマークも厳しくなるだろうが、日本アマでの目標は決勝マッチプレーへの進出。夏場は高校・ジュニアの競技が目白押しだ。「プロで通用する選手になりたい」と言う古川の皮むけた姿を見たい。

(ⓧは母親の真理さんと。1週間遅れの母の日プレゼントににっこり)

2位タイに終わった比嘉一貴 「ディボットにはまったりで、運もなかった。日本アマは日程が重なるユニバ(韓国)があるから、出場は無理だろう。100回記念大会だから出たいけど、4年に一度のユニバとどっちをとるかですよ」

2位タイの蛭川隆(IGR京セラ) 「後半、ここからと言うときにボギー、ダブルボギーとつまづいた。日本アマではマッチプレーでベスト4に入ることが目標です」

2005年の九州オープンチャンピオン。

最終日はベストスコアタイの実力を示し5位入賞の大倉清(大博多)

「ショットは良かったし、優勝を狙ってきた。このコースセッティングでは自分らが頑張らんといかんのだろうけど…(6年ぶりの出場で)試合勘がねえ」